

会 議 録

1 附属機関等の会議の名称 松川町行政評価委員会

2 開催日時 令和5年8月23日(水) 午後6時00分から午後8時00分まで

3 開催場所 松川町役場2階 協議会室

4 出席者氏名

松川町行政評価委員会委員

小川光兵委員、細田勉委員、川合征人委員、高坂龍夫委員、篠田阿依委員、
清水祐一委員、竹村暢子委員、北原紀子委員、松尾雅子委員、齊藤和勇委員、
久保田志げ子委員、正井亜樹委員、塚本聡委員
(欠席 水野一昭委員)

役場出席者

町長 北沢秀公、
総務課 米山政則課長、住民税務課 伊藤孝光課長、保健福祉課 塩倉智文課長、
産業観光課 田中学課長、建設水道課 原高広課長、リニア対策課 小沢雅和課長、
教育委員会事務局こども課 中村昌彦課長、
教育委員会事務局生涯学習課 高根竜二課長、図書館資料館 福島俊美館長、
議会事務局 佐々木保局長

役場まちづくり政策課(事務局)

下井昭二課長、大橋良平係長、林雅人主査

5 議題(公開又は非公開の別)

- (1) 令和4年度行政評価について(公開)
- (2) その他(公開)

6 非公開の理由(会議を非公開とした場合) ー

7 傍聴人の数 1人

8 会議資料の名称

- (1) 令和4年度 行政評価の概要
- (2) 令和4年度 行政評価
- (3) 会議次第
- (4) 名簿

9 審議の概要

(1) 開会（事務局）

(2) 町長あいさつ

《町長退席》

(3) 委員自己紹介

(4) 正副会長の選出について

会 長 小川光兵委員

副会長 北原紀子委員 に決定

(5) 会長あいさつ

(6) 協議事項（進行 会長）

ア 令和4年度行政評価について

《事務局から説明後、委員から意見、質疑》

（委員） それでは4つほど意見を申し上げたい。意見なので回答は不要である。まず一つは財政健全化について、評価一覧表のコメントの中に事務負担や人件費が財政を圧迫しているといったことが書かれているが評価書の一般財源でも確かに前年より増えているといった中で、満足度を上げていくことと、財政を良くするというのは反比例になってしまうと感じている。

そうした中で投資対効果を見る上では評価自体は財政係が携わった方が財政のコントロールができるのではと思います。今回給食費の無償化という全くイレギュラーの補助制度をやるということだが、今まで行政評価の中に全くないような事業がポンと上がってくること自体がこの行政評価がどういうものかなという心配する。

続いて人口減少の集落支援員の関係で、生東地区に集落支援員を配置したが結果的には生東区の全ての自治会は解散して公民館活動のやめてしまったということで、持続可能ということには繋がらなかったわけで、他の地域にも集落支援員を検

討されているようだが、反省を生かして取り組んでいただきたいと思います。

それからふるさと納税ですが、ネットのポータルサイト等増やしたようだが、総務省の方では経費が5割を超えたものについては認めないよという中で返礼品が3割、（一社）南信州まつかわ観光まちづくりセンターへの委託料がおそらく1割、サイトでの処理料、送料と増えていくと、この5割を超えるのではないかなと危惧されているので心配である。

それから観光の中でインバウンドとあった。今も目的達成度は低いが今後拡大改善をしていくというこれも非常にギャップが大きい中で、そのためには当然お金も人もつぎ込むということのことだが、果たして町単独でインバウンドという事業が必要なのかどうか。もっと広域的に取り組まれた方が南信州の観光というのは長野県全体のわずか5%と言われているので、その中で各町村奪い合っても仕方ないのではと思う。そういったところの改革が必要かなと思う。

（委員）私は松川町に来て15年くらいになるが、50歳くらいの方たちが松川中学校にいた時代は6クラスくらいあったらしい。それで今は学年で2クラスくらいしかないのでしょうか、人口減少で今、松川町は12,000人切るか切らないかくらいのところまで来ているらしいが、これに対して、役場の方たちが一生懸命仕事されているってことはよくわかるものの、この人口減少の問題とあと松川町をいかに伸ばしていくかっていうことを考えたときにやっぱり松川町の観光資源は、果物っていう立派なものがある。その中で今、空き農地がいっぱいできているとか、いろんなことが考えられるが、こういう点で、人をいかに呼び込むかというところがあまり私達には努力が見えてこないっていうのは非常に残念である。この辺りのことをお聞きしたい。とりあえず今以上に人口を増やす、そして農業なども、農地が空かないようにするにはどうしたら良いかということが、もうちょっと見えてこないっていうところがちょっと気になる。もしご意見があったら、聞かせていただきたい。

（事務局）私の方から人口減少の関係の取組について回答させていただければと思う。人口減少につきましては全国的なもので、松川町のみならず近隣市町村も頭を抱えている問題かと思っている。

今まではコロナ禍の中ではあったが、SNSやホームページを使った移住定住の案内をしてきているが、行動制限等もあり、松川町に訪れていただけの方が少なかったかなと思っている。

今年度になり、コロナが5類になった中で担当の職員が松川町から飛び出して、それぞれの場所のイベントだとかセミナーなど移住定住に向けてのアピールを始めてきている。これがいつ成果に結びつくかっていうのは正直、お答えできるところではないが、そういった部分を含めて人口減少に対して、少なからず、下がっていくのをちょっとなだらかにしていくような取り組みを始めてまいりたい

また移住に向けての体験住宅ですとか促進住宅を確保してまいりました。こちらはだいたい利用者数が増えてきており、今、空きがない状況となっているので、そういった課題も今年度改善をしながら、松川町にとりあえず来ていただいて住んでも

らって、定住に繋げてもらうっていう取組みが一番早いかなと思っているので、こうした取組みを行っている。

(産業観光課長) 空き農地がいっぱいあって町の観光資源の果物などを振興するためには活用が大事だというようなご意見いただいてありがとうございます。その通りだと思っている。

今現在まず町の方で取り組んでいることは、言われる通り、遊休農地や、それから農地自体が荒廃してもう使えなくなっているっていうような状態があるので、農業法人を10月以降に立ち上げて、その法人が、優良農地を維持管理して、次の担い手の方に譲ってこういう取組を考えているところ。使われていないようなところをしっかりと管理して、次の担い手が見つかるまで管理して渡していくという作業をしたいと思っている。

これが一点と、それから町の方は有機農業に力を入れている。この発端は1人1坪農園をやっているって、小さな農地でもいろんな一般の方々にもとにかく農産物作ってもらおうということでチャンネル・ユウの番組で野菜の栽培方法なども普及や啓発し、できるだけ有機で体にいいものを作ってくださいと発信している。今はゆうき給食とどけ隊という人たちが、学校給食に農産物を届けてもらっている。

もう一点は果樹研修生という制度を4年前から作っており、松川町で果物に特化して研修してもらい全国から定住してもらおうという制度である。毎年2人ずつの研修生を受けて3年間研修した上で松川に定住してもらい果樹栽培をやってもらう。今年も2人が卒業しまして、実際に農業者になってもらって、今年度また2人入れる予定なので、今のところ7人プラス今度は2人入ってくるというような感じで、全国から果樹をやってみたい人を受け入れるという制度がある。

それから松川町はそうは言っても全国的に見ても非常に若手の農業者が多いところである。若武者という20代30代40代前までの人たちが30人から40人ぐらい長いことグループを作っており、その方々や農業女子のグループもあるので、そのような若手の方々が中心になって色々なイベントなども行っているということで、引き続き応援をしていきたい。まずは法人をしっかり立ち上げていくのが課題である。

(委員) コロナ禍の4年間の中で、健康づくりというものは達成していただいた努力は素晴らしいと評価しているが、実際問題5類になってからもコロナにかかる頻度というのは決して少なくはなっていないような気がするし、最近また身近でかかった方がいるっていうのをよく聞くようになった。その中でコロナに関する情報というのは以前に比べてずっと少なくなっていると思う。

また福祉課の皆さんが努力している。令和2年3年4年と評価が下がらずに努力していただいたことは評価するが、コロナの話無しには健康づくりを考えていくことはできないので、コロナと健康をどう松川町は考えてこれからの政策に反映していくのかお聞きしたい。

(保健福祉課長) コロナの情報は5類になったところで、国や県から情報が実際こな

いというのが現状で、週に一度感染症状況という形で、県が発表しているところで、定点観測として代表的な病院の指数を見るというのが、私達が見ることのできる唯一の情報である。松川の人がどれだけかかっているのかという情報も一切来ないというのが現状である。

長野県全体で50超えると流行となっているが、50を超えている時期は確かに5月以降何週もあったり、現在もまだあるかとは思いますがそれが現状である。

ただ、今年はまだワクチンが無料で受けられる期間なので、ワクチンの情報だけは町から出すことができていて、春から夏にかけての接種は高齢者の方や基礎疾患のある方に受けていただいていたが、9月20日以降は65歳の方々ももう1回受けられるし65歳未満の方ももう1回受けられますという広報をこれから行う予定である。努力義務の方々と任意の方々という風に変えていくので、この点については抜かりなく皆様に広報して広めていきたいというふうに考えている。

そしてコロナと抱き合わせをした政策をどうしていくかということがご質問のもう1点でありました。

まず1点目は高齢者を含む介護施設などについては、5類になろうが2類のままだろうが警戒のレベルというのは今も現在も緩めていないのが現状で、施設の中で利用者さんまたは職員の方が出たところで保健所に報告して今後の方針をどうするかというような相談をしている。ここは緩めてはいけないし皆さんの命を縮めないように、コロナを運ばないようにということを施設の皆さんも気をつけていただいているので、そこは相変わらずやっていくべきところ考えている。ただ、その部分でない皆さんはやはり経済を回していくということの方でもいかに大切かということと、とはいえ、かからない方がいいということはもちろんなので健康を増進していきながら、でも予防活動は皆さんもしていきましょうと、手洗いだとか換気については引き続きやっていただくような呼びかけは必要だと考えている。

(委員) ありがとうございます。今後とも情報がありましたらぜひこまめに流していただき、また住民全体が安心して健康づくりできるようご努力願いたい。

(委員) 安心して子育てできる環境づくりと地域で学び、地域で育つ人づくりの部分で、私たちフリースクール事業をやっていまして、不登校というか学校に行かない子供たちの受け入れを毎日行っている。現状本当に教育委員会が連携をしてくださっていて、学校と同じ場所ということで出席に認めていただいたり、こうした連携を運営する者としては本当に感謝している。

この評価一覧表を見せていただいて基本方針2の中の政策大綱3ー地域とともに育てる学校づくりのうち、2ー学校のあり方についての検討会の総括評価が2つという結果で、これは令和2年から4年を通しての評価だと思うが、学校のあり方が今結構価値観が色々変わっていったりとか、学校だけが全てじゃないということで学びの場を求めていく中であったりとか、少子化に対して、支援級の数が増えていたりとか学校に行かない子どもの数も増えているっていうギャップの中で、松川町として、今後学校のあり方をどのように考えて、どのような地域に開かれた学校の形を考えておられ

るのかお聞きしたい。

(こども課長) 学校の在り方に関してだが、やはり時代とともに不登校のお子さんとか、また支援の必要なお子さんっていうのが数字としては増えている状況かと思う。その中での取り組みとしまして昨年からその保育園から今のところ中学までの間で、切れ目のない支援という位置づけの中で保小中運営協議会というのを昨年度から立ち上げた。今年度も2回目を秋口に予定しているが、保育園、小学校、中学校と続く中で、保育園から小学校に行く段階や、中学校に上がる段階とか、そういったところで情報が切れない形で継続して職員間や他の学校とも連携しながら、また町内ですとフリースクールのHugさんとも情報共有しながら、継続した支援を強化していきたいと思っている。そういったことの中に、地域っていうのもまた少しずつ取り組んでいきながら、支援を推進できたらと今現在考えている。

(委員) ありがとうございます。今後、教育だけでなく福祉、例えば医療とか保健福祉的な部分も横に繋がりながら、学校としてのいい形ができていくといいなと感じている。

(委員) 今のお話を伺って生活困窮者への適切な支援相談というページを読ませていただいております、80%以上の評価3ということで、概ね達成ということですのでごくいいなと思うが、こういう部分は逆に漏れている、80%じゃない20%未満のところ、これに預かれない人が必ずいるっていうことだから3と文章だけでは読み取った。実際の自分の経験から、自分も子育て中に困窮したときがあり、役場や社会福祉協議会などに相談させていただいたときに、母子家庭ではないから支援が一つもないというふうに言われてしまったときがありとても困ったときがあった。それだけに限らず困っている方っていうのはやはりたくさんいると思うので、生活困窮者という定義が多様化していると思いますので、「支援の内容によっては生活基盤の変化が必要となり」ということが令和4年の課題のところにも書いてあるが、確かに限られた予算の中で支援する対象っていうのは決まってくるかもしれないが、やっぱり生活困窮者というのは本当に困っていると思いますので、「より細かな支援体制の構築・研究が必要となる」とあるとおり、一層研究を深めていただきたい。どのページも確かに大事な分野ではあると思うが、自分の経験も踏まえて、これがぜひ4になるようにどんな同じ町の中で同じ仲間の中で生活が困窮して生きていくのがつらいっていう方が1人でも少なくなるようなそんな政策を考えていただけたらと思う。

(保健福祉課長) 保健福祉課としては、生活困窮の中では、生活保護一步手前の皆様から相談を受けるところになっており、ストレートに生活保護に行けばいいが、やっぱり財産を持ってらっしゃるとか、車があるとかそういう条件によっては、救いの手が届かないということが確かにあり、国の法律と折り合いをつけながら、ということが必要になってくる。

家庭の事情によっては教育委員会、学校の部分では多少軽減できる部分もあるので

ご相談いただくことによって、こんなサービスが使えるとか、横断的にお話をしていかなければならないと考えている。

国もそういう仕組みを考えており、重層的な地域支援体制を作りなさいということで、問題や事情のある家庭の方っていうのは、お年寄りから子どもまで色々な問題が重なっていて、それを支援する体制を作っていきなさいということである。

これは包括支援センターが中心だが、今年その支援体制の構築のために取り組みをしている。地域活動支援センターという障がい者が入っていただいている施設だとか子育て支援センターなどにそれぞれにやってくる問題を横断的にできるかというようなことを検討できる体制ができると良いと考えている。

それから地域の皆さんにもそれを手伝っていただくような地域づくりを町だけではなくて地域の皆さんの協力もいただきながら考えてまいりたい。

(委員) 都市公園について、私も今、子どもが小さくてよく公園に利用させてもらっている。むらやま公園はとても整備されていて気持ちよく過ごせるが、なかなか他に町内で行ける落ち着いた過ごせるような公園がないと思い、どうしても町外に出てしまう。結構町外から公園を求めて松川に来てくれるっていう点でも効果があるかなと思う。公園整備の今後の方向性などお聞きできればありがたい。

(建設水道課長) 建設水道課で5つの都市公園について、管理しておりむらやま公園もその一つである。むらやま公園は台城公園の次、2番目に大きい公園である。5つの公園について、老朽化等進んでおり、長寿命化、いわゆる延命化を図るということに力を入れ、計画も立てている。こうした中で、新しい公園作りというのは、今のところ考えていないが、町長は子育てのまちと謳っているので、新しい公園と言ってもいい場所があるかないかはあるが、検討課題の一つかなと思っております。

(委員) 公園のことで、むらやま公園はよく知られているが、他にも何か所もあるということが、あまり知られていない。

整備をしてもらいながら、広報の中で、こういうところにありますよ、近場で過ごしてもらえますよ、という情報をもっと広めて知らせる方法をしていただいたら、少しまた違うのかなと思う。

(建設水道課長) ありがとうございます。そのとおりと思っている。先ほど町内で5つの公園があると申したが、むらやま公園のほかに、台城公園、城山公園、富士森公園、松川公園がある。これが都市公園で、その他には管轄は違うが松川運動公園、松川児童遊園などがある。

都市公園の他の4つは周知があまりされていないということなので、案内看板あるいは町ホームページ等の活用など、あらゆる可能性を探りながら、町民の皆さんに周知できる方法を考えていかなければいけないと思っている。

(委員) 計画的な森林整備ということで拡大改善という目標を立てているが、私自身初

めて区の林道整備などに携わって、土日に、とにかく中京ナンバーの車が多いことに驚いた。松川町では、土日に大体1日どれぐらい登山者がいるか数字がわかったら教えていただきたいし、また観光施設として、山がすごく魅力的なので、力をいれていただきたい。こういう思いの住民がいるということをご理解いただければと思う。

(産業観光課長) お答えさせていただくと小八郎線の林道を使って小八郎あるいは烏帽子または念丈岳へ上っていただくお客様が多い。春先から秋口にかけて、今も非常に多い状態である。登山届のカードを入れてもらうので、それを毎月集計して表になっているので、またお渡ししたいと思うが、日によって大きな差があって、年間5〜600人だったような気がするが、それぞれの月や日によって違う。確かに本当に中京圏ナンバーの車とか関東、大阪の方からも来ていただいている。関係者の方々が登山道の整備をやっていただいたり、また上片桐の商工会でも整備をやっていただいている。とても今、登山が好きな方が増えているので、町としては、安全に登山ができて気持ちよく帰ってもらえるような整備の方を引き続きやっていきたい。

(委員) 登山関係に詳しいので、今のお話を伺って思ったことだが、登山届を紙媒体で出す人が今かなり減っていて、電子地図など、そういう会社に直接出したりネット環境で当然届けを出す人の方が増えているので、もちろん紙媒体をカウントするのがいいかと思うが、でもそうするとどうしても町内だけではどのぐらいの人が利用しているっていうのはわかりにくい。

なので、もし可能だったら今後検討課題として、どういう仕組みなのかかわからないが、よく登山口に国立公園とかカウOUNTER通ると簡単になるようなものもあるので、そういったものとかを設置するとか、あとは確かに小八郎ですとか烏帽子がインターから近い、さらに温泉がすぐ入れるっていうことで、今アウトドアブームの中で本当に増えていると思う。確かに中京圏の方多いと感じていて、今もやってくださっていてなかなか難しいかもしれないが、トイレがきちっとあるっていう登山口は、特に他の地域でも人気があると思うので考えていく必要があると思う。

立派なトイレがもしできなくても、綺麗なトイレっていうのがやっぱり必須条件かなと思う。そこで人件費をかけてでも毎回トイレ清掃する人を増やすとか、そういったことも政策の一つに考えてもいいのかなと、それをもし強化したいのであればいいと思う。

(産業観光課長) おっしゃるとおりだと思うし、やはりトイレの有無で大きな差があるということは承知している。少し考えているのが、やっぱり入口は簡易トイレがあるが、例えば小八郎の5合目や上など、途中のどこかにもあればいいなという話も出ているので、また御相談させていただきたい。

(委員) 関連して、トイレのことと災害対策のことで、今自分の住んでいる場所は非常に快適だと思って暮らしているが、災害となると怖い。今は年に何度も大雨が降って警戒するようなことになっていて、雨がたくさん降ると心配しながら、怖いと思う

ことが多い。山に暮らしている人は多かれ少なかれ、感じていると思う。

避難所のことが気になっていて、旧松川東小学校が町の避難所に指定されていると思うが、そのトイレは旧東小がもし避難所として使われ、たくさんの人が避難してきたときに使えるトイレになっているか。最近が行っていないが、何年か前は洋式のトイレがすごく少なく、あんまり綺麗でもなかった。地域から避難してくる人はきっと年配の人が多くなるだろうから、そうするとより洋式のトイレを皆さん使いたいと思う。そうしたときに避難している間、十分な数、快適に使えるトイレであるかなと思いい、現状をお聞きしたい。

(事務局) 避難所の関係であるが、旧松川東小学校の管理はまちづくり政策課なのでお答えをさせていただく。トイレの洋式化については過去何年も要望いただいている中でいろいろ検討はして参っている。

今、所々ではあるが、簡易的な様式のもを設置させていただいているものの根本的な解決にはなっていないということは承知している。

今年度校舎のトイレも含めまして洋式化の準備をしていこうということで現在検討を進めている。現状はまだちょっと当時の小学生が使用している小さい便器になっているので、大人でも優に使える洋式のトイレにしていきたい。

(委員) 移住定住の促進について、しっかり色々対策をされているようだが、これと企業誘致、企業誘致は私の知る限りでは10年ぐらい企業の誘致がない。実際企業の誘致をするには、それなりの敷地がないと無理ということがあって、それを含めて遊休農地の農業の推進もいいが、もしでき得れば、例えば高森あたりは天竜川沿いに工場の団地を推進して工場等がたくさん来る、についてはそれが人口増加に繋がる、働くところができるということになってくるのではないかと思います。

実際、商工会に所属している事業所も350社ほどで、10年15年前までは430社ぐらいあったが、結局減ってきている。

そういう面からも、トータルで考えてみると、一つ一つそういうのをまとめていくと、人口増にも繋がる。

もう一つ、松川町には住宅供給公社っていうのが今はあるかどうか、私はあったと認識しているが。今は機能してないようだが、当時、町の方で宅地を作って、勤めるところ、住むところをしっかりと確保して、人口が増えたときがあったのでは思っていますが、今人口が減っていることを考えるとトータルでちょっと考えていただけたらと思う。

(事務局) トータルで人口増対策ということでその取り組みだが、

最後にお話のあった住宅の確保の部分で、土地開発公社を活用して過去に分譲を重ねてきて、住宅の確保に取り組んできた経緯がある。最近は特に進んでいない状況ですが、リニアを見据えた時代を迎えるにあたって、土地開発公社を活用した取り組みを進めるということで計画を立てているところである。トータルの移住定住から住宅の確保、また働く場所の確保を含めて住みたいまちに繋がる対策を現在計画しながら

ら進めている現状である。

また議会や広報を通じて周知をしてまいるので、よろしくお願いいたします。

(産業観光課長) 確かに企業誘致がなかなかできてないというのが現状である。コロナも5類になり、リニアももうくるというような状況の中で、やっぱり企業誘致することで仕事ができることで雇用が生まれ、ここに住みたい人が増えるということに繋がるのでとても大事な部分だと思っている。今のところなかなか町の中でまとまった土地でというのが計画されていないのが現状ですが、色々な人の意見を聞く中で、片桐松川沿いの部分で既存企業もある中で、所々まだ未利用地のようなところもあるので、そのようなところがうまく計画できれば、企業の集積地になっていくのかなというような、本当にまだ将来的な話だが話には出ている。

また新井商店街でも空き店舗がかなりあるので、そのような店舗を上手に活用してもらって、国の交付金を使いながら、色々な事業計画しており、空き店舗をレンタルオフィスやワーキングオフィスなどに活用できないかということで検討中なので、少しずつ企業が来てくれるような環境を整えていきたいと思っている。またご意見などいただきたい。

(委員) もう一点、新井の空き店舗の件もあるが、空き家もとても増えてきている。壊すと固定資産税も上がるという話も聞いているが、そうすると壊すとお金がかかるし、更地にすることも難だということになると、空き家を町の方で、買い上げるとか、借り上げるとかいう形をとって、そこを移住定住の一つの足がかりの場所にするような、多少手を入れてもやっていくのがいいかなと思うが、ご意見をお聞きしたい。

(事務局) 空き家関係について、移住定住に関わる部分でまちづくり政策課担当しております。

空き家については移住定住希望者等向けに空き家バンクを現在進めてきている。

現在件数は少ないが利用者や見たい方に繋げていくというスタンスで進めているが、空き家バンクに登録する空き家が、いろいろ町で書いてあげてっていうようなご意見をいただく中で、どうしても、空き家ではないが、お正月に帰ってくるから渡せないとか、夏場のお盆に帰りたいのでちょっと人にはってっていうような、そういう条件が付く家が多くて空き家バンクの方に繋がってないっていうような現状もある。

そういった部分も含めて何とか空いたときだけでも貸していただきたいというような意向調査も含めながら、今年度空き家バンクの情報を増やしていきたいという取り組みを検討している。

またご意見ありましたら参考にさせていただきたい。

(委員) 総合的に全部絡まっていると思うが、私が松川町の将来を考えたときに一番強化し達成していかなくちゃいけないことは移住定住の問題だと思っている。どこの市町村もだが、若者がいない町はもう廃れていく一方かなと思っている。その中で私も25

年弱ぐらい前にIターンした。

そのときにはもちろんネット社会でもなく、SNSみたいなものはないから、とにかく仕事がないと、どんなにこの町に移住したいと思っても、移住できなかったという状況があつて、必死で近隣市町村で探して何とか定住できた。なので、企業誘致ですとかそういったことは進めていただきたい。

自分自身、Iターンつながりで友達になったりする機会が多く、特にこのコロナ禍になってからパソコン一つあればもう仕事ができるという状況が進む中で、よく聞くのが出社しなくてよくなったから移住してきましたっていう方の声を他の市町村でもよく聞いた。そういう方々が松川町にワーケーションなり何なり定住という形で来てもらえばいいなと思う。

若い世代、つまり子育て世代が定住するには、子育てできる地域づくりっていうところがとても大事だなと。それが総合評価の中で3.25というのはとてもよかったなと思って嬉しく思う。

その他にも松川町はインターが近かったり立地もいいし、その他にネームバリューとしても果物が豊富とかそういったところでもすごくいいものを持っている。他市町村で、特に上伊那の方で子育て世代が増えている地域があると思うが、それは口コミで「あそこの町いいよね」って言って、どんどん増えている気がする。今回、給食費無料化とかそういった子育てに対して魅力的な政策も進んでいくようでし、それはとてもいいと思う。

しかし、それを情報発信する仕掛けがやっぱり今ひとつ足りてないのかなと思う。利便性の高い行政手続きの推進、コンビニで税金を納めるとか、そういったものが促進されているのはすごくいいなと思って実際に私もこれで担当でも助かっております。

若者向けにはいいなと思うので、いい政策をしているのに、それがあまり若者に届いてない気がする。この街こんなに住みやすいよっていうのが届いてない。

そういうところがもっともっと口コミやSNSで発信できるといいということで広報まつかわの発行、前向きに縮小っていうところで、ネット媒体で検討しているところもすごくいいなと思う。反面、ネット媒体が使えない年配の方など慣れてない方に対してはどうなっているのかなっていうのは少し気になった。ただ若者に対してはいいなと思う。若者にどういうふうにこの町がいいんだよっていうのを届けるかっていう仕掛けが考えられたらすごく定住促進できると思う。

私も会議などでいつも感じるのが、どんなにいい企画を立ててどんなにいいものを作ってもそれが目的の方に届いてなければ売れないっていうのが常に課題になっている。この定住促進っていうところで、何とかどういう方法がいいか、本当にどこの行政も多分生みの苦しみかなとは思いますが、そこを何とか松川町がリーダー的に走ってほしいと思う。

(事務局) 移住定住に係る全ての事業ということで、どう整理したら良いかと思っている部分もある。情報発信の部分については既存のホームページであったりFacebookであったり、インスタグラム、Twitter等、それぞれ運営はしているが届けたいところ

に届いてないっていうのが確かにあると思っている。

先ほど例に出た広報誌についても、紙媒体で全戸に配れば情報が届いているというものではないかなとは思っている中で、そういった評価も出てきていると思っている。今すぐこれやりますとか、こうすればこうなりますっていうのは正直言える段階ではないが、今あるSNSですとか情報発信ツールをフル活用して、松川町の発信に力を入れていきたいということは町長から指示をいただいている。デジタルでできない部分は、人が出かけて発信するというのをいろいろな面から取り組んでまいりたい。

その中で色々な町の政策や考えているものも一緒発信をしていくというような取り組みを始めていこうと思っているので、またご意見ありましたら、よろしくお願いします。

(委員) 有機農業とか果樹研修生の制度等々一生懸命頑張っている姿を見ており、私達がシードル始めたときにすごく町で応援していただいて、今現在すごく自立してやっている。その中で有機農業に関わる事業とか果樹研修の形も、自分たちが成り立つだけではなく、そのことによって発信するということを目標に、今後支援して評価に繋げていってもらいたい。特に研修生の方とかは、今何しているのかなとかあまりお聞きすることがないような気がするので、同じ業界なのでぜひ支援して町の普及のためにもっと発信してこんな魅力的なことをしていますと、やっていただきたいと思う。

先ほど話に出たトイレの対策について、女性農業者を増やしたいと思ったときには場に欲しいなとも思っていて、ぜひ浄化槽が必要じゃない簡易トイレをすごく町全体でいろんなところに作っていただくことによって、山の観光の皆さんや公園利用されるお子さんや農業される女性、男性もだが、使っていただけるようなものも検討してもらいたい。

(産業観光課長) 言われるように果樹研修生が本当に定着して勉強してもらってそれがゆくゆくは町に返ってくるというか、町の発展に繋がるような形でまた自ら情報発信していただけることが本当に大事だと思っている。

果樹研修生がやっていることも定期的に皆様に知ってもらえるような機会をまた作っていききたい。

それからトイレについて、正直最初は自分ではピンと来なかったが、確かに女性農業者等々も必要なことと思うので、そういうこともまた多方面と連携しながら検討してまいりたい。

(委員) また思いつきのような話ですみません。仕事柄色々なところに毎日のように出かけて県外・町外に出かけているが、結局出かけたときに立ち寄ろうと思うところはトイレが綺麗なところである。高速道路上でも、ホテルのトイレじゃないかと思うぐらい泊まりたくなるようなトイレがあるからここのサービスエリアに寄ろうとか、そういう感覚で思っている。実際特に女性にとって大事なことのひとつはトイレかなと思う。山の仕事を中心にやっているが、山小屋でもなかなかトイレ整備が進まないっていうのが現状である。トイレが綺麗な山小屋にはお客さんがいっぱい来る。同じよ

うに町の中でも誰でも使っていい公共のトイレとか、そういうものが町にお金を落とす施設の近くにドーンってあると、人が来ると思う。

この町いいよねっていうのがそこから発信されていくと思う。飯島に道の駅が二つあり、どちらのトイレも整備されていて私も大抵寄るが、そうするとたくさん県外ナンバーが止まっていますし、トイレに行ったらそこでちょっとお金を落としてこうかなっていう気持ちにもなりますから。トイレはもしかしたら、町にとってとても良いものをもたらすのかなと思う。

(委員) 私は15年ぐらい前にまず高森の方に移住してきてそれから松川に来たいわゆる移住者で、暮らしていてもうこっちが故郷みたいな気持ちである。移住定住促進のことを普段から自然に考えていることが多い。今テレビつけても移住者がテレビに出ていたり、移住定住の話題が色々出て、移住定住促進することって何がそんなにいいのかと考えることが多い。

みんな力を入れて、知恵を絞って移住定住を促進して、何がそんなにいいことがあるのだろうかといつも考えている。

地域に人がいたら、自治会もうまく回るだろうし、空き店舗も空き家も活用されるだろうなど。経済を活性化して、税金も入って、いいことはたくさんあるが、でも国全体で人口が減っていて、自分の町だけ人口が増えるってすごく難しいと思う。

自分の中では、この前思いついて、私は移住して暮らしてすごく快適に生活している。出身は首都圏で、この夏も帰っていたし、まず夏に帰るとすごく暑くて、空気が悪いところに加えて、朝夕もこっちみたいに気温下がらない。

首都圏で幸せに暮らしている方ももちろんたくさんいるのはわかるが、これって進む環境としてどうなのかなと思う。こっちに帰ってくると昼間は夏暑いですが、朝夕と気温が下がって、生物としてもう絶対こっちの方がいいと感じる。

ありがたいことに仕事もあったからこういうふうになんか快適に暮らせているところはあると思うが、だから気づいたことは、過密な都会から移住してくるとすごく快適に暮らせる、移住者はその恩恵を受けられる。

だから、その面では移住してきた人がすごく快適になる暮らしが幸せに繋がるというか、移住してきた人がすごく快適に暮らせることが多いのではないかな。

一番のメリットって、それで移住してきた人がまず、快適に暮らせることが移住定住の一番のメリットではと思った。

ただ、来てみないとわからないので、体験住宅もすごくいいと思うし、なるべくそういうチャンスを町がたくさん提供して欲しい。それで何かのきっかけで松川町に引っ越してきて、こんなふうに気持ちよく暮らせると思う人を増やしてほしい。

(委員) 初めてなので、ここまでトータルで聞いてみて、私は、内にある力を強くするというのをもう少ししっかりやっていただけた方が魅力も強くなるし、PR力が強くなると思う。町の中にあるもっと魅力的な人であったり、モノであったり、場所だったり、そういったものをしっかり発掘していくことが、今一番先にやることではないかなと思う。

(委員) 私達の自治会が24戸で高齢者の独居老人の人たちが多かったりと、もう存続できないという話を毎月の会でしているが、どうして行政でもう少しそういうところに手を差し伸べてもらえないのか。

私の住む自治会は、小さい状態に病院が2つ過去にあって、これをそのまま放置していいのかと思う。何とかしていただきたいと思う。

(委員) ここに住み続けたいと思うようなまち作りをぜひお願いしたい。子どもが大学に行って、帰ってきて、ここでまた子育てをしたい、結婚したいと、そんなまちづくりをぜひお願いをしたい。

イ その他

事務局から、御欠席の委員から事前にいただいた御意見を紹介。

(7) 閉会